

4. 意見・要望等

意見・要望等	回 答
主催事業への応募者が多数の場合、どのように参加者を決定しているのか。 地域バランス、過去の当選歴は考慮されるのか。	どの事業も、厳正なる抽選を実施している。 地域性を考慮することは、倍率が地域により異なり公平性が確保できないため、行っていない。 また、過去の当選歴は管理が難しい。申し込みの段階から、過去に参加された方は対象外と条件を付ける等のやり方もあるかもしれないが、完全にフラットな状態で抽選を実施している。
食品の仕入原価が上がっていると思うが、値上げについて検討されているのか。	原材料、飲料水、お酒類等様々なものが値上がりしている。できるだけ安く仕入れて値上げしないようにしたいが、社内努力も限界がある。値上げについて、指定管理者と県とで協議・検討しているところ。
施設の利用状況についての資料について、日帰り利用者の数に打合せを含んでいると思うが、実際にプログラムを利用した人数が分からないのではないか。	この資料とは別に資料を作っており、打合せ等の人数を把握している。
主催事業にキャンププログラムがあるが、コロナでキャンプ人口が増え、キャンプ場で、ゴミの始末や就寝時刻についてのマナーの悪さを聞いたことがある。キャンププログラムで、マナーの部分も伝えてもらえないか。	先日のプログラムでも、たき火をしたが、安全かつ環境に影響が出ないような消火の仕方等のルールやマナーについてお話しした。 また、利用者には、オリエンテーションで就寝時刻や退所時の清掃等、施設の利用方法を説明し、守っていただいている。
食事について、アレルギーや宗教上の制限等への対応はどうなっているか。	利用者へはあらかじめ調査し食べられないものを把握しており、食べられないものを除去するという対応をしている。食べられない食材が多い場合は、利用者に食事を持参していただいている。 以前は別メニューも用意していたが、効率の観点から少数の利用者にまで対応できないため、現在はそのような対応をしている。

意見・要望等	回 答
退所前の清掃について、コロナ前と変わった点があるか。	以前は各宿泊室に館内用のスリッパを用意していたが、現在は撤去している。 その他、大きく変わった点はないが、消毒液で拭いていただいている。
サン・レイクが宿泊療養施設となっており、休所が都度延長されてきた。利用団体としては宿泊研修のためにかなり前から準備をしており、休所の連絡があった時、宿泊することを大事にするのか、日帰りでも集団活動を大事にするのか非常に悩んだ。 今後、休所にならないことを願っているが、休所により宿泊研修から日帰り研修に変更した団体数の数が分かれば、参考に教えていただきたい。	いろいろなパターンがあるが、宿泊を大事にしたので休所が明ける時期に変更する、学校行事の関係で日にちは変えずに日帰り研修にする、或いは国立三瓶青年の家や鳥取の施設に変更された団体もある。 いつになったらコロナが収束するのか、サン・レイクが開所するのかが分からないため、限られた内容でも日帰りで実施したいという団体が多かったと思う。整理して情報提供する。
地域と連携した事業があるが、サン・レイクの事業で、地元の方が教える側となって参加し、双方の学びの機会となっている。 サン・レイクが使えないために企画した事業かもしれないが、元の状況になっても地域と連携した事業を継続して欲しい。	今後も地域との繋がりを大事にしたい。サン・レイクのことを地域の方に知っていただくことが課題だと思っている。 企画した事業が、地域の方の活力になっていることが知れ、大変ありがたい。
事業への参加対象が、「小学生と保護者」等の制限がつけてあることが多い。興味があり参加したい事業があっても、制限があり参加できないため、大人だけでも参加できるようにならないか。	家庭教育支援という形で、親子での学びの機会を増やすという方針に沿って実施している。 例えば、公民館等の職員研修で体験してもらって、公民館等でも企画していただけると、更にたくさんの方に参加していただけるようになる。サン・レイクだけでは限られた人数しかできないので、公民館等と連携して取り組んでいきたい。
部活動が地域に移行されるが、地域に受け皿がない。体験活動を求めて社会教育施設を利用したいという子供が増えるのではないかと思います。応募者の多い事業では僅かな人数しか参加できない。募集人数を増やすとか、回数を増やすことができないか。	募集人数をコロナ感染対策のため限定して実施した。テントを使う事業だが、サン・レイクが療養施設となっており使用できる部屋が限られていること、間隔を取りながらテントを張ることから、限られた人数での実施となった。 今後、状況が変わっていけば募集人数を増やしていきたい。

意見・要望等	回 答
ひとり親家庭支援事業を実施しているが、全国的に不登校の子供が多く、直近のデータで、千人当たりの人数が島根県は第２位となっている。 サン・レイクの事業により、自己肯定感の向上など期待できると思うので、例えば不登校傾向の子供を対象とした事業についても検討していただきたい。	A市の生徒指導推進室から、「不登校の小・中学生を対象とした体験活動ができないか」という相談があり、活動プログラムを提案した。予想を上回る応募があり、大変好評だった。 今後もそういう事例を紹介して、市町村等の要望に応じて取り組んでいきたい。